

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

33. ミミナグサ（ナデシコ科ミミナグサ属）

Cerastium holosteoides Fries var. *hallaisanense* (Nakai) Mizushima

2015年4月

田畑や路傍などに生育する越年草です。茎は下部から分枝し、赤紫色を帯びることが多く、高さ15～30 cmで密に毛があり上部は腺毛が混じります。葉は柄がなく対生し、卵形～長楕円形で鈍頭、両面に毛があり、長さ1～4 cm、幅4～12 mmです。花は4～5月にまばらにつけ、花柄は5～15 mm、がく片は長楕円形で5個あり長さ4～5 mm、毛と腺毛があります。5個ある花弁は白色で先は2裂し、がく片と同長です。分布は北海道、本州、四国、九州、朝鮮、中国で、姫路市においては比較的自然度の豊かな丘陵地谷部の田んぼや道ばたなどに見られ、かつては広く生育していたようであるが今は比較的少なくなり、郊外に行かなければ見ることができないようになりました。名前は葉がネズミの耳になぞらえて付けられたといわれています。類似種にヨーロッパ原産のオランダミミナグサ（*Cerastium glomeratum* Thuill.）があります。ミミナグサとよく似ていますが、全体に灰色がかった黄色の軟毛と腺毛が多く、花柄が萼片と同長かより短く、花序は密であることが特徴です。都市部でも至る所に見られ、田園地帯においてもミミナグサが生育していたところは多くが本種に置き換わってしまいました。



ミミナグサ



オランダミミナグサ

手柄山温室植物園だより
シリーズ：姫路市に見られる身近な植物